

## 入選

### 小さな親切

福岡県 荒木小学校

四年 永江 侑莉

わたしは去年、白くて、とてもきれいなハトを家の近くで、一羽見つけました。よく見ると、左足のかわがはがれていて、中の肉が見えていました。とてもいたそうで、かわいそうだったので、まず急いでお母さんに、ハトが大きなけがをしていることを伝えにいきました。

そして、もう一度ハトの足を見ると、足首のところにタグがついていることに気づきました。そのことをお母さんに言うと、お母さんが、

「このハトは、レースばとだね。」と言いました。もしかしたら、近くでだれかがかかっているのかもしれないと思い、いろいろ調べてみることにしました。けれど、その前に動物病院の人に電話をして、けがをしているハトをどうすればいいのかを聞きました。

動物病院の先生がこう言いました。

「ハトがにげないように見はりながら、まずはかい主をさがしてください。」

と言われました。言われたとおりにして、近くで白いレースばとをかかっている人をさがして電話をかけてみました。

いろんなところに電話をして、ようやくけがをしていたハトのかい主を見つけられました。そして、ハトはぶじにかい主のところにもどれました。みんなで、

「よかったね。」

と言っていたら、ハトのかい主が、

「ハトを見つけてくれたお礼に、ジュースをどうぞ。」

と言って、ジュースをくれました。わたしはそのとき、とてもうれしかったです。

けれど、ジュースをもらったときのただのうれしさと、ハトがかい主のところにもどれたときのうれしさとは、少しちがいがあったなと思いました。

ジュースをもらったときのうれしさは、

「やった、ジュースをもらった。」

くらいの軽いうれしさでした。けれど、ハトがぶじにかい主のところにもどれたときのうれしさは、

「ハトがなにごともなく、ぶじにかい主のところにもどれて、本当によかった。」

というふうに、心がほっとしました。うれしさには、何かをもらったりしたときのうれしさと、だれかを助けたときのうれしさの二つあるなと思いました。

わたしは、だれかを助けたときのうれしさの方が、自分にとってもうれしい気持ちになったので、たくさんの人たちを助けたいなと思いました。

今までは、人がだれかに親切にすることは、あたりまえだと思っていただけで、理由はわからなかったけれど、やっと人がだれかを親切にする理由を知ることができました。親切とは、自分にとっても大切なことだと思いました。